

# 歴史・伝統文化

あすか あづちももやま  
飛鳥～安土桃山時代

平安時代には、備後国は「きびのみちのしりのくに」と読んでいたそうだよ。



## 1 備後国

備後国は、7世紀の終わり頃に吉備国が三つに分割され、その西の端に位置する国とされたようです。

国の役所である国府の場所は、平安時代の書物に葦田郡にあると書かれており、現在の府中市元町付近と考えられていますが確かではありません。

備後国の国分寺は、現在の福山市神辺町下御領に位置していたとされています。江戸時代に土石流で流され、壊れてなくなりましたが、再建されています。(現 唐尾山医王院国分寺) また、国分尼寺は、現在の福山市神辺町西中条の小山池廃寺と考えられていますが確かではありません。



〔現 唐尾山医王院国分寺〕

## ふるさと豆知識

### 吉備津神社

備後国の代表的な神社に、新市町の吉備津神社があります。この神社は、平安時代に備中国の吉備津神社（岡山県岡山市）から分けられたと伝えられていますが、実際には12世紀ごろに建てられたものとみられ、一宮と称されるのは中世以降のことです。

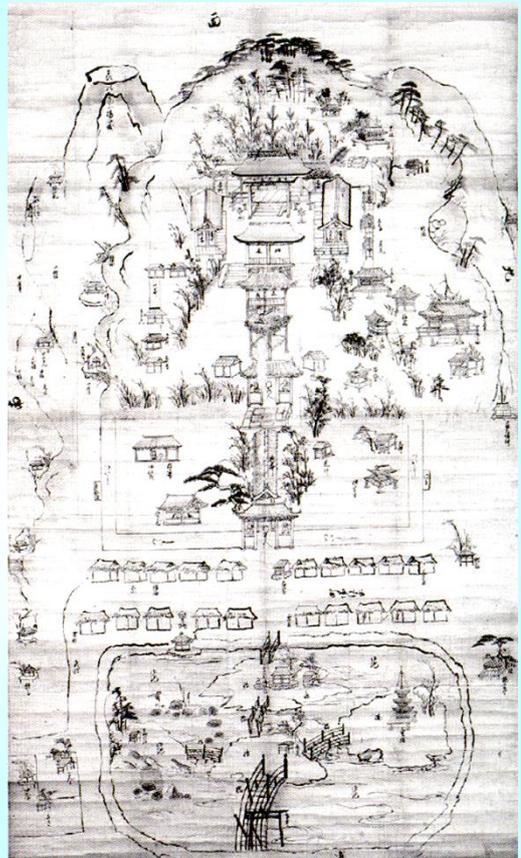
吉備津彦命を神様として祀り、地域では一宮(いっきゅう)さんと呼び親しまれています。

鎌倉時代の「一遍上人絵伝」(遊行寺蔵・国宝)に詳しく描かれています。社殿の配置は古絵図にも描かれているように、ほぼ昔のままです。

本殿は、国の重要文化財に指定されています。

### 〔吉備津神社 古絵図〕

(室町時代の頃の様子を江戸時代初めに描いたものと言われています。)



## 2 陸の道、海の道

### (1) 古代山陽道

奈良時代から平安時代中頃まで、都と大陸との交易の根拠地にあたる九州大宰府を結ぶ道が整備されていました。

この道は、古代山陽道と呼ばれ、30里（現在の約16km当時の1里は約534m）ごとに駅家という施設を設置し、大陸からの外交使節などの通行を助けました。

古代山陽道は、特に重要であったため、他の道の駅家より多い20頭の馬が配置され、瓦葺きと白壁の立派な駅家が作られました。

この道の一部が福山市の北部を横切っており、安那駅（神辺町湯野）、品治駅（駅家町中島）の2駅があったと考えられています。



駅家とは、古代日本の街道沿いに整備された施設で、使節や役人が移動する際の馬を飼育する厩舎や水飲み場、宿泊や休憩の部屋、調理場や倉庫などが設置されていたようだ。



### (2) 古代山陽道の推定ルート

古代山陽道は、岡山県井原市高屋町から国道313号線に沿い、神辺町につながっています。神辺は備後地方最東端の駅家で、国境の駅家としてずいぶん栄えました。

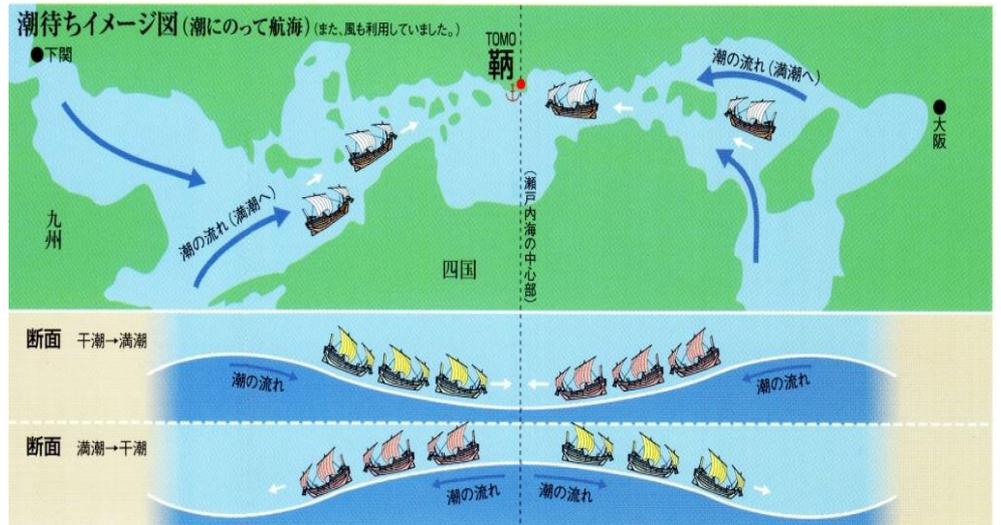
神辺からは、駅家、新市、府中、御調、尾道へと古代山陽道は続いていました。瀬戸内海沿いを通るのではなく、海より離れた内陸部を通過していました。



### (3) 鞆の津

京都や大阪と北九州をつなぎ、大宰府等へ往来する官使、遣唐使などが航行していた瀬戸内海は、天然の運河として政治・経済・文化の交流に重要

な役割を持っていました。風向きや潮の干満を利用しての航海では、鞆の津は潮の満ち引きを待つ船の「潮待ちの港」としてにぎわいました。



### ふるさと豆知識

万葉集に詠まれた鞆

『万葉集』には、鞆を詠んだ歌が全部で8首あるそうだよ。



「吾妹子が見し鞆の浦のむろの木は  
常世にあれど見し人ぞなき」

<意味> (大宰府へ向かうとき) 妻が見た鞆の浦のむろの木は、いつまでもこの世にあるけれど、いっしょに見た妻は、今はもうこの世にいない。

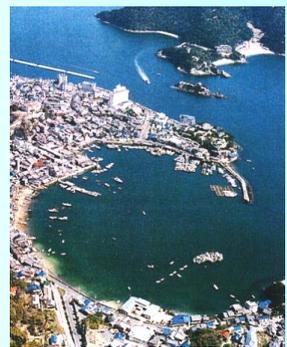
\* この歌は730年(天平2年)、大伴旅人が大宰府の役人の任期を終え、都へ帰る際に鞆の浦に立ち寄った時に詠んだ歌です。大宰府で最愛の妻を失い、一人になった寂しい気持ちが伝わってきます。



「ま幸くて またかへり見ん 大夫の  
手に巻き持てる 鞆の浦廻を」

<意味> 幸い無事であったなら、また帰りに見よう。立派な男子が手に巻き持つ(鞆という名の武具と同じ名前の)鞆の浦を。

\* 湾の形が、矢を放つ際に、弦が左腕に当たるのを防ぐための「鞆」という武具にそっくりであることから、「鞆の浦」と呼ばれるようになったという説がある。



「海人小舟 帆かも張れると 見るまでに  
鞆の浦廻に 波立てり見ゆ」

<意味> 漁師の小舟が、あちこちで帆を張っているのかと見間違ふほどに、鞆の浦全体に波が立っているのが見える。



### 3 明王院と草戸千軒

#### (1) 明王院の歴史

明王院は福山市草戸町にあり、「常福寺」と呼ばれていました。お寺に残された文書によると、807年(大同2年)に空海(弘法大師)が建てたと言われています。

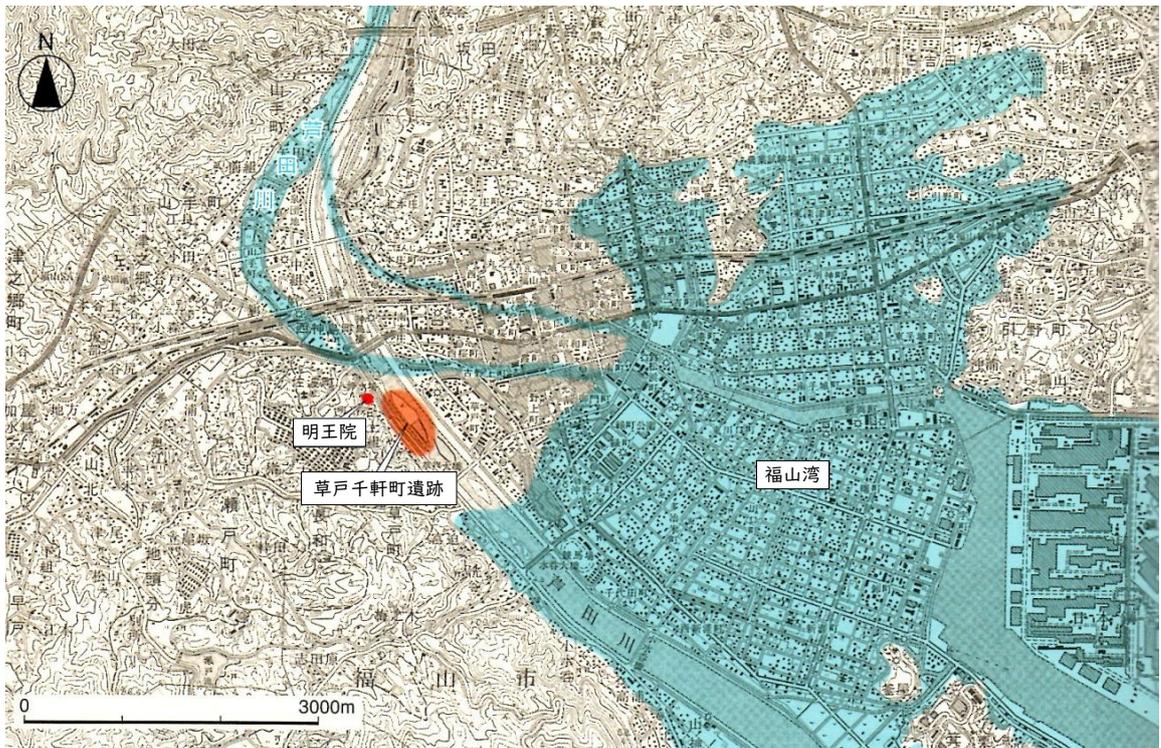
明王院の仏像は、今から1000年以上前の平安時代の初めに作られたもので、お寺もそのころ建てられたのではないかと推測されています。

お寺の中には、本堂・五重塔のほかに、庫裏・山門・書院・護摩堂・鐘楼などの建物や多くの石塔があります。本堂と五重塔は国宝に指定されており、建物の内側の輪垂木を用いたアーチ型の天井は、この当時には珍しいものです。五重塔は、1348年(貞和4年)に建てられ、塔の内側の柱や板壁などには仏画や文様が描かれています。日本中の五重塔の中で、5番目に古いものです。



〔明王院五重塔(左手前)と本堂(中央奥)〕

#### (2) 中世の港町「草戸千軒」



〔中世の海岸線〕



〔草戸千軒遺跡 全景〕

明王院のある草戸町に「草戸千軒」という室町時代の町がありました。明王院の門前町かつ芦田川の河口付近の港町として栄えた町です。江戸時代に書かれた『備陽六郡志』という書物の中に、名前が書かれています。町の様子は書かれていなかったの  
で、長い間「幻の町」と言われていました。

1930年（昭和5年）頃の河川工事によって、当時の町が川底から発見されました。1961年（昭和36年）から約30年間発掘調査が行われ、広い町であったことが分かりました。今から500年～800年ほど前の中世の人々の生活が分かるものや、中国・朝鮮の陶磁器やお金が多く発見され、草戸千軒は瀬戸内海から世界に通じていた港町として栄えていたことが次第に分かってきました。現在、広島県立歴史博物館に、草戸千軒の町の様子を再現した模型や出土品が展示されています。

草戸千軒の人々の暮らしなどを、ふくやま草戸千軒ミュージアム（広島県立歴史博物館）で知ることできるよ。

[www.pref.hiroshima.lg.jp/site/rekishin/](http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/rekishin/)



#### 4 室町幕府と福山

「建武の新政」を行った後醍醐天皇や新田義貞と対立した足利尊氏は、1336年（建武3年）に鞆の浦で、光厳上皇から新田義貞討伐の命令を受けました。その後、義貞を倒し、後醍醐天皇を退位させて、北朝の光明天皇から征夷大將軍の位をさずかり京都の室町に幕府を開きました。

その後、1573年（天正元年）、織田信長により京を追われた室町幕府最後の將軍足利義昭は、毛利氏の支援で鞆城に入り、鞆に拠点を移して信長打倒の機会をうかがっていました。幕府の役職についていた家臣たちも、義昭を頼り鞆に集まったことから「鞆幕府」と呼ばれていました。

鞆の浦で尊氏が上皇の命令を受けたり、足利幕府最後の拠点が鞆にあたりしたこと「足利氏は鞆に興り、鞆に滅ぶ。」と言われてます。



〔鞆城跡〕

#### ふるさと豆知識

##### 能登原(沼隈町能登原)合戦

源平の戦いで平氏の武将、平教経（清盛の甥）が現在の能登原に陣をはったとされています。

教経が能登守という官位であったことから、この地が能登原と呼ばれるようになったとされています。

教経が、弓を立て掛けたという「弓掛け松」は国の天然記念物でしたが、枯れたため、今では、根幹のみが残っています。

また、教経が射掛けた矢の一本が刺さったのが「矢ノ島」で、矢は根をおろし竹が生い茂ったという伝説があります。



〔弓掛け松〕



〔矢ノ島〕